

探求の書シリーズ

タイムトラベルをしよう！ 聖書の世界の 歩き方

イエスに応えて今日を生きるために



Jack Kuhatschek



前書き

タイムトラベルをしよう！

聖書の世界の歩き方

イエスに応えて毎日を生きたために

「分らない」聖書箇所が出てくると「やっぱり自分は牧師ではないから、専門家ではないから」

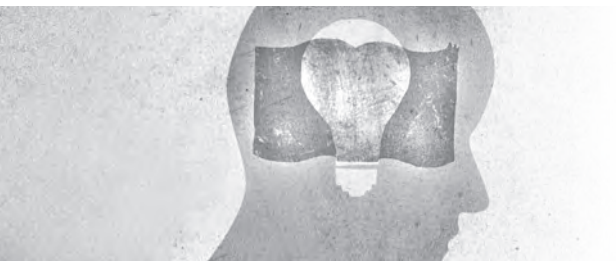
と諦めたくありませんか。本書のタイムトラベルの方法をぜひ試してみてください。巻末にまとめたさまざまな資料を活用しながら、神と一緒に聖書の世界を旅する楽しさを体験してみてください。これを専門家だけのものにしておくのはあまりにもったいないですから。

「聖書学校などで学んだことのない自分が聖書を読むと、間違った解釈をしてしまうんじゃないか」と心配ですか。しかし聖書そのもののの中に安全装置が組み込まれています。それが「文脈」です。その箇所の前後の文章だけではありません。本書で詳述しているとおり各書物全体の流れ、あるいは書物同士のつながり、当時の歴史的・文化的背景などさまざまな文脈を把握することで聖書著者の意図を正しく理解し、私たちの日常生活で実践することができます。

聖書は神があなたと出会ってくださる、デートの場です。みことばを受け取り、味わい、自らと照らし合わせ、実際に生き方をもって主に応えていくなから、神はあなたの性別や学歴、立場にかかわらずご自身を表し、語りかけ、触れてくださいます。そのように神に出会い続ける人は、イエスの似姿へと変えられ続けていきます。あなたもその素晴らしさを体験し続けることができますように。

なお翻訳にあたり、日本語読者のために一部補足を加えたことをお断りいたします。

デイリーブレッド社
日本語編集部



はじめに

ア ルバート・アインシュタインといえば、舌を出した写真と「相対性理論」を思い浮かべる人が多いでしょう。

しかし、彼が亡くなるまで30年間ある理論を追求し続けたものの、ついぞ見いだせなかったという事実はあまり知られていません。アインシュタインは自然界の主要な力すべてを統一された枠組みで説明する理論の存在を信じていました。

探求は今日も続いており、その未発見の理論は「統一場理論」あるいは「大統一理論」と呼ばれています。しかし、最も一般的な呼称は「万物の理論」、つまり「物理のすべてを説明する理論」です。

アインシュタインとはほとんど共通点がないのですが、私もある大統一理論を追い求めていました。それは創世記から黙示録までの出来事とみことばの教えを網羅し、かつ子どもでも理解できるほどシンプルで美しい聖書の大統一理論、つまり聖書全体を貫くテーマです。

聖書の大統一理論は神のみこころや思いを明らかにします。また今から永遠に至るまで、神が何を最も大切にしておられるかも示すでしょう。さらに私たちが何のために創造され、何を目指して進んでいけばよいかも理解できるはずです。

ある晩、私の探求に大きな転機が訪れました。神学校の教授と夕食をともにした時です。私は、どうして出エジプト記に幕屋の建て方があんなに詳細に長々と書かれているのか、と尋ねてみました。

「ああ、簡単なことさ。神で自身が来ようとしておられたんだ、ご自分の民とともに生きるためにね」。その一言が、聖書物語を最初から最後まで読み解くマスターキーでした。事実、聖書の最後の書物には使徒ヨハネが見た幻が記されていますが、そのクライマックスにはこう書かれています。

また私は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。私はまた、聖な

る都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとから、天から降って来るのを見た。私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。以前のものが過ぎ去ったからである。」すると、御座に座っておられる方が言われた。「見よ、わたしはすべてを新しくする。」また言われた。「書き記せ。これらのことばは真実であり、信頼できる」(黙示録21:1-5)

神が、ご自身を中心とした愛の共同体を建て上げるために私たちを創造してくださいました。愛である神は、私たちをご自身の似姿に創造してくださいました。その愛を、私たちが神ご自身、そして隣人と生きる中で余すところなく経験するためです。

創世記3章で人間が神に背いた結果、罪の激震によって、私たちに与えられた神の目的は砕かれてしまいました。罪は私たちと創造主との関係を引き裂き、そこにあるはずだった共同体や交わりを徹底的に破壊してしまいました。

しかし、神は初めのご計画をお諦めになりません

でした。聖書のどの書物、そこに記されたどんな物語にも、私たちをご自身のもとへ取り返そうといかなる犠牲もいとわない神の御姿があります。最終的に私たちと同じ人間となり、十字架上で命を捨てることで、神は私たちとの間にあった断絶を取り除いてくださいました。

聖書は単なる人生のマニュアルではありません。何よりもまず、神との関係についての書物です。聖書全体を貫くこの壮大なテーマが分かれば聖書の読み方は一変します。みことばの主題がルールではなくて愛だと分かれば、あなたをご自分のものとしてくださる創造主の鼓動が感じられるはずです。

この小冊子は聖書を理解し、それに基づいて生きるためのガイドブックです。しかし、読み進むとき、いつもこの聖書全体の大きなテーマから目をそらさないでください。それは北極星のようにあなたを目的地へと導くでしょう。

ジャック・クハチェック

目次

ステップ1

もともとの文脈を理解する 9

ステップ2

より大きな原則を探す 27

ステップ3

みことばの原則を今日に当てはめる... 43

巻末

聖書を学ぶための参考資料..... 54

編集長: J.R. Hudberg

表紙デザイン・イラスト: Felix Xu

本文デザイン: Steve Gier

ページ画像: (p.3) Jeremy Culp ; (p.9) Marcello via StockXchng; (p.27) Agnes Scholies via RGBStock; (p.43) Constantin Giuhath and Linden Laserna via StockXchng.

この小冊子は以下の書籍からの抜粋です。"Applying the Bible: A practical down-to-earth guide to helping you get more out of your Bible reading than you ever imagined!" by Jack Kuhatschek. Copyright © 1990 by Jack Kuhatschek.

聖書は特に記載のない場合は、聖書 新改訳2017 ©2017 新日本聖書刊行会を引用

監訳: 田井淳子; 翻訳: 山田風音; 編集: 有澤優子; 校正: ニコルス明子

発行所: 有限会社デイリーブレッド

住所: 大阪市中央区玉造2-26-47 大阪クリスチャンセンター内

Website: japanese-odb.org • Email: japan@odb.org

転載および転記には許可が必要です。

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。ご連絡ください。

Copyright © 2023 Our Daily Bread Ministries, Grand Rapids, MI
All rights reserved.

Japanese book adapted from DS "A Message for All Time"



ステップ1

もともとの文脈を理解する

名 作映画『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の主人公は1980年代を生きる男子高校生です。彼は図らずもスポーツカーを改造したタイムマシンで50年代にタイムスリップしてしまいました。同じ町なのに、様子が全然違います。女の子たちはポニーテールにウェストをきゅっと絞ったフレアスカート姿、男の子たちは髪をポマードでテカテカになでつけて、みんなエルビス・プレスリーみたいな格好です。ガソリンスタンドに入ってくるのはピカピカの「クラシックカー」。作業服姿の従業員が何人も駆け寄り、それぞれ給油したり、窓を拭いたり、ボンネットを開けてオイルを確認したり。ガソリンの値段は1リットル約20円、コーラも1本約20円です。

しかし、変わってしまったことばかりではありません。当時も今も高校生として生きるのは楽ではありません。現代の高校生にも学校、授業、宿題、人間関係があります。友情や初恋の経験もするでしょう。ラジオがスマホに変わってもみんな音楽は大好き。気になる相手がいればもじもじしたりわざとからかったりしてしまうし、コーラも飲むでしょう。さすがにもう20円では買えませんが。当時と今、そんなに違わないかもしれません。

聖書を読むときにも似たような感覚があります。そこに書かれているのは奇妙で聞き慣れないことばかり。人々はラクダに乗り、テントに住んでいます。動物をいけにえとして献げ、豚を「汚れたもの」だと思っています。礼拝をするのは土曜日で、日曜日から働きます。不妊の妻は、夫に女奴隷との結婚を許します。私たちにとっては全くの異世界です。

もちろん、共通点もたくさんあります。聖書の人々にも誘惑があり、神を信頼して生きるのは決して簡単ではありませんでした。現代を生きる私たちと同様です。約4000年前に生きたヨブの苦悩に共感できるのは、私たちの苦悩と共通するものがあるからです。夫が妻を愛する義務、そして子どもたちが両親に従う必要は聖書時代も現代も変わりません。

あたかも聖書記者たちが私たちに直接語り、励まし、慰め、希望を与えてくれているかのように感じることも少なくありません。聖書が何度も繰り返し語るのは、神がいかに忍耐

強く、慈しみ深く、ご自分の民に心を砕いておられるかということです。また聖書全体を通し、神はご自身、そしてご自分の民同士の愛の関係に彼らを招き続けておられます。

「違和感はあるけど共感できる」、聖書を読んで、あるいは1950年代が舞台の映画を見てそう感じるのは、歴史的な隔たりのせいです。聖書の人々と私たちの間にはたくさんの共通点がありますが、同時に約2000年から4000年もの時間的な隔たりがあります。彼らは私たちと異なる時代、場所、文化に生き、異なる言語を話していたのです。

聖書を理解して私たちの人生の指針とするために、この歴史的かつ文化的な隔たりは無視できません。

タイムトラベル

聖書を学び、生活の中で実践するというのはタイムマシンに乗るようなものです。時間、言語、文化、そして地理的な隔たりを越えなければ、**聖書の世界の人々**について正しく理解できません。まず**彼らが置かれた状況で、彼らがどのようにみことばを受け取め、いかに行動したか**を知る必要があります。この章ではその方法をお伝えします。

当時の人々が神のみことばをどう受け止め、どのように応答したかが分かったら、再びタイムマシンに乗り込み21世紀に戻りましょう。現代社会で神とともに生きようとするとき、私たちは聖書が直接述べていない課題にも直面します。そのような課題に対し、みことばが語ることをどのように聞き取

り、その知恵をどのように実践するのか。これは後の章で説明します。

私たちのタイムマシンにはさまざまな「装置」が搭載されています。どれも今日、聖書を真摯（しんし）に学ぼうとするなら誰でも使えるものばかりです。これらの装置で、聖書の世界と私たちとの間にある数々の隔たりを越えていきましょう。

【時間の隔たりを越える】現代の私たちが何千年も前に起こった聖書の出来事を理解しようとする、明らかな問題があります。私たちはその場にいなかったのも、前後に何があったのか、当時何が問題になっていたのか、また時代的な背景など重要な情報をほとんど持っていません。つまり、歴史的文脈に不案内なのです。

新約聖書の手紙のほとんどは、具体的な問題への対処として書かれました。イエスを通して神との新しい関係に入った人たちは、それぞれ課題を抱えていました。ガラテヤの人々は律法によって義を追い求めていましたし、コリントの人々は結婚、霊の賜物、そして偶像に献げた肉について答えを求めていました。テモテは教会の秩序を回復する方法を学ぶ必要がありました。

背後にあるそのような問題や疑問を知らずに手紙を読むのは、誰かが電話しているのを脇で聞くようなものです。話している人が**何を**言っているかは分かりますが、**なぜ**そう言う

のかが分かりません。詩篇や預言書も同様です。私たちは話の片方しか知らないのです。

例えば、ヨハネは最初の手紙の中でこのように書いています。

愛する者たち、霊をすべて信じてはいけません。偽預言者がたくさん世に出て来たので、その霊が神からのものかどうか、吟味しなさい。神からの霊は、このようにして分かります。人となって来られたイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。イエスを告白しない霊はみな、神からのものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていましたが、今すでに世に来ているのです。(1ヨハネ 4:1-3)

ここはしばしば霊の判別について述べていると誤読され、その結果、誤った実践がなされてきました。悪霊につかれていると思われる人がいたら「イエス・キリストは人となって来られたか」と尋ねるべきだということです。悪霊につかれているならそれを否定するはず、しかし「その通りだ」と答えるなら、その可能性はないと判別できるということです。

これは歴史的文脈を無視した解釈の典型例です。注意して読めば、ヨハネが述べているのは霊の判別方法ではなく、偽預言者と本当の預言者の見分け方だと分かります(1節)。そして、偽預言者としてヨハネが念頭に置いているのは、神な

るキリストが正真正銘の人間となられたことを否定する者たちです。彼らは肉体や物質が悪だと信じていたのです。

そのような背景はどうすれば分かるのでしょうか。歴史的文脈を把握するにはいくつか方法がありますが、どれもあらゆる聖句に応用可能です。まず、**書物全体や聖句そのものから手がかりが得られます**。ヨハネの手紙第一2章19節から、偽預言者たちがもともと教会の仲間だったということが分かります。「彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです」。ヨハネは彼らを「反キリスト」と呼んでいます(18節)。彼らを警戒するようにと伝えることが、この手紙の執筆理由の一つでした。「私はあなたがたを惑わす者たちについて、以上のことを書いてきました」(26節)。他にも、最初の読者たちの置かれた状況や手紙の執筆理由についての明確な言及、そして間接的なヒントがたくさんあります。

聖書の各書物や聖句の歴史的文脈を知るために、**関連箇所を読む**のも有益です。例えば詩篇51篇はバテ・シェバと姦淫(かんいん)した後にダビデが詠んだものです。サムエル記第二11、12章にその詳細が書かれています。(詩篇51篇の場合は序文からその背景が分かりますが、本文にそのような情報がなくても、たいてい聖書欄外にある**引照や聖書辞典、注解書に関連箇所が挙げられています**。)同様に、ピリピ人への手紙を学ぶ際に使徒の働き16章を合わせて読むと、ピリピの教

会が始まった経緯を知ることができます。

歴史的文脈への理解を深めることは、著者のメッセージを読み解くための大切な準備です。ばらばらのパズルのピースを見つけてはめ込んでいくように、全体像がどんどん明確になっていきます。

【言語の隔たりを越える】 聖書ははじめから日本語で書かれていたわけではありません。もともとはヘブル語、アラム語、そしてギリシャ語でした。これは聖書のメッセージを理解する上で大きな障壁です。そのような聖書原語に習熟するのがいかに大変かは、実際に学んでみればすぐに分かります。幸いなことに、専門家たちが私たちの代わりにこの隔たりを乗り越え、現代日本語に翻訳してくれました。いまや多種多様な翻訳聖書が手に入ります。▼

▶ 翻訳聖書はその翻訳方針によって形式的等価、機能的等価などと分類されることがある。また、もっと自由な表現を試みる意訳聖書も多数出版されている。

どの翻訳にも長所と短所があります。形式的等価と呼ばれる翻訳方針は、ヘブル語やギリシャ語の各単語にできるだけ近い訳語を当てますが、そうすると日本語として不自然な部分が出てきます。

意訳聖書は単語ごとの厳密さより訳文の明快さを重視します。確かに読みやすいのですが、あたかも聖書がつい数年前

に書かれたかのような印象を与えてしまいます。例えばリビングバイブル（1978年版）では詩篇119篇105節の「ともしび」という言葉を「懐中電燈」としています。

細心の注意を払って学ぶために、いろいろな翻訳聖書の利点をフル活用しましょう。どの訳からも、著者が原語で表現しようとしたことをくみ取ることができます。

【文化の隔たりを越える】 聖書の出来事の背景には多くの異なる文化があります。エジプトやカナンの文化、他にもバビロン、ユダヤ、ギリシャやローマの文化……。挙げればきりがありません。ですから、21世紀の文化を生きる私たちには一見理解しがたい慣習や信念が書かれていても当然です。

ラケルが父から盗んだテラフィムとはどのようなもので、彼女はなぜそれを盗んだのでしょうか（創世記31:19）。ヨナがニネベの人々を恐れたのはどうしてでしょう。サマリヤ人とはどんな人たちで、どうしてユダヤ人とあんなに敵対していたのでしょうか（ヨハネ4:9）。コリントに住むクリスチャンたちが特殊な誘惑に直面していたのはなぜでしょう。そこにコリントという都市の影響がどの程度あったのでしょうか。そのような文化的背景を理解すると、新しい気付きが得られます。聖書の登場人物それぞれの行動、恐れ、敵対心、誘惑に対して神のみことばが何を語ったかが分かってきます。

例えばアモス書には次のような聖句があります。「まことに、イスラエルの背きのゆえに わたしが彼の上に報いる日

に……その祭壇の角は折られ、地に落ちる」(アモス3:14)。一見、21世紀の私たちには意味が通じません。しかし聖書辞典を使えば、私たちもアモスのメッセージを理解することができます。

「祭壇」や「角」の項目を見ると、神殿の祭壇は四隅に角状の突起が付いていたことが分かります。この角に犠牲の動物の血を塗っていました。旧約聖書の時代、多くのユダヤ人にとって、祭壇は命乞いの場所とされていたようです。■

▲ 新エッセンシャル聖書辞典「祭壇の角」の項には次のようにある。「逃れの間を求める逃亡者がこの角をつかむ時、それにより自らの身を神の保護のもとにおくことができた(Ⅰ列王記1:50-53、2:28)」※1

身の危険が迫っている人は神殿に来て、祭壇の角をつかんだのです。この文化的背景を理解すれば、アモスのメッセージが分かります。つまり彼はイスラエル人にこう警告しているのです。「あなたが祭壇に身を避けようとしても、その角、すなわちあなたの守りがすでに折られているのを見るだけだ」と。

古代中東文化にどっぷりつからなければ、聖書の学びは不可能です。■ それに精通すればするほど、聖書の世界と現代との文化的な隔たりを上手に越えることができます。

【地理的な隔たりを乗り越える】 聖地旅行をした人は「聖

書がこれまでになくリアルに感じるようになった」と語ります。しかし実際に聖地旅行をしたことがなくても「疑似体験」が可能です。聖書の地理が頭に入ると、多くの聖句が新しい意味を帯びてきます。

📖 学んでいる書物や箇所そのものから、当時の文化についてかなりのことが分かる。例えば、福音書には1世紀のパレスチナ地方の状況について多くの記述がある。ユダヤ人はローマ帝国の支配下にあり（ルカ3:1）、敵からの解放をもたらすメシヤの来臨を待ち望んでいた（1:71）。また商習慣（16:1-18）、結婚式（ヨハネ2章）、葬儀（11章）、賃金（マタイ20:1-16）、租税（22:15-22）など当時の日常生活の様子もうかがい知れる。

例えばアモス書1章3節-2章16節では、預言者アモスがダマスコ、ガザ、ツロ、エドム、アンモン、モアブ、ユダ、そしてイスラエルを非難します。一見、アモスはこれらの町や国を手当たり次第に並べているだけに思えます。しかしよく調べれば、この順番の背後にある巧妙な意図が分かります。最初の三つはイスラエルと血縁関係のない国の首都です。次の三つはイスラエルにとって遠縁にあたる国。7番目のユダはイスラエルの南に隣接する、いわば兄弟国。そして最後に言及されるのがイスラエル自身です。

これはアモスの聴衆に大きなショックを与えたはずです。

イスラエル人たちは最初、アモスが異邦の国々に裁きを宣告するのを聞いて拍手喝采だったでしょう。しかしその矛

先がだんだん近づいてきます。アンモン、モアブ、ユダ……。じわじわと冷や汗が出てきます。とうとう「イスラエルの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない」（2:6）と、ここに至って、アモスの糾弾が聴衆たち自身に及ぶのです。

聖書の地理に精通するにはいくつかの方法があります。あなたの聖書に地図が付いているならぜひ活用しましょう。また良い聖書地図帳や聖書辞典があれば、あまり聞きなじみのない地名であっても有益な情報が得られるでしょう。

注意深く読む

タイムマシンで時間、言語、文化、そして地理的な隔たりを完全に乗り越えたとしましょう。あなたは今、1世紀のコリントの町にいます。ギリシャ風の服をまとい、流ちょうなギリシャ語を話し、文化や地理もよく分かっています。またすでにコリントの教会によく顔を出しており、教会の人々のことも、そこで問題になっていることもよく知っています。

礼拝のために近くの家を集まると、使者がやって来ます。手にはパウロからの手紙が握られています。後に「コリント人への手紙第一」と呼ばれるものです。受け取ったあなたはその巻物を開き、読み始めます。（もちろんギリシャ語で！）時間、言語、文化、地理の隔たりを越えたあなたなら、パウロがコリントの人々へ伝えたかったメッセージを難なく理解

できるでしょうか。必ずしもそうではありません。

同時代を生きた使徒ペテロでさえ、パウロの手紙には「理解しにくいところがあります」と述べています(Ⅱペテロ3:16)。もちろんペテロが「理解しにくい」と言ったのは、所々意味をつかみにくい部分があったからでしょう。しかし、たとえ文章が明快だとしても、私たちがパウロや他の著者たちの意図を理解できるかどうかは私たちの読解力にかかっています。ですから聖書の学びを深めるには、読解力を育むことが不可欠です。ここで言う「読解力」とは、聖書だけでなく小説や雑誌などあらゆる文章を読む際に用いる一般的なものです。

「著者がもともとの読者に伝えようとしたことは何か」。この基本的な問いに答えることが、読解の最初の目標です。(「その箇所は今日の私たちに何を教えているか」という問いは後で取りあげます。)

次の五つの指針に従い、著者のメッセージを読み取りましょう。

1 その書物がどのようなジャンルの文学かを確認する ある晩、教会でカルト問題の専門家が講演会を開きましたが、カルトグループのメンバー数人がそれを聞きつけてやって来ました。会合の真っ最中、その1人が立ち上がり「父なる神は私たちのような物理的な身体を持っている」と論じ始めました。そして自らの主張を「証明」しようと、神の「御腕」「御手」「御目」などの表現が用いられた聖句を引用したのです。

そこで講師は彼に詩篇17篇8節を朗読させました。「御翼の陰にかくまってください」

「でもこれは単なる言葉のあやじゃないですか!」と反論する彼に向かって、講師は「その言葉、そっくりそのままお返ししますよ」と応じました。

聖書の記者たちは物語、手紙、詩、格言集、例え話、などさまざまなジャンルの文学を用いました。比喻や象徴を多く含む預言書や黙示録もあります。各ジャンルには異なる特徴があります。詩を新聞記事のように読むのが的外れなように、著者が用いているジャンルを特定し、それに沿って読み解かなければ、その意図を正しく捉えることはできません。詩的表現や比喻を用いて書かれているのに「著者は字義通りのことを伝えようとしている」と仮定しても、的外れな結論に至るだけです。

2 書物全体の大きな文脈を確認する 「文脈」というのは直前の段落や前後の章だけではありません。ある聖句にとって、それが含まれる書物全体も大切な文脈です。大きな文脈をつかむことは読解にとって二つの点で有益です。まず、頻出する単語や概念に注目することで、その書物に一貫する主題を知ることができます。また、先に全体の論旨を把握することで、各部分がその主題にどう関わるのかがよく分かるようになります。

これは望遠鏡で遠くの景色を見るようなものです。まずは

低倍率で全体を見渡しましょう。頻出する単語や概念を探しながら全体をざっくりと読みます。全体を読めないときは、スタディバイブルやハンドブックで概観を把握したり、インターネット上の信頼できる動画や資料などを参考にするのも一案です。

次に少し倍率を上げ、書物全体をいくつかに分けて見ていきます。それぞれの部分に主要テーマが一つずつあるはずです。それを見つけたら、自分の言葉で小見出しとして簡潔にまとめましょう。これでようやく、細部をじっくりと観察する準備が整います。段落、文、そして単語へと、倍率を上げていきましょう。

3 少しずつ学ぶ 書物全体の主題と構造を把握したら、ひとまとまりずつ学んでいきましょう。ここでいう「まとまり」とは、今日の聖書の一つの段落、いくつかの段落の集合、あるいは章に当たります。ただし覚えておきたいのは、聖書にはもともと章も、段落も、節の区切りもなかったということです。句読点すらありませんでした。後から追加された区切りは便利ですが、それにこだわる必要はありません。

4 書物全体や各部分の感情に注意する 聖書は単に思想や概念を集めたものではありません。著者や登場人物は、私たちと同じように感情や心を持っていました。ゲツセマネの場面を読むと、イエスの経験された悲しみやうめきが迫ってきます。ガラテヤ人への手紙からは、ユダヤ主義者に対する

パウロの憤慨が見て取れると同時に、兄弟姉妹たちが彼らになびいていることへの当惑もひしひしと伝わります。一方、詩篇148篇からは抑えきれない賛美の情熱を感じられるでしょう。このように、聖書の学びには主観的な側面もあります。著者や登場人物の感情や動機について洞察を深めると、彼らが伝えようとしたことをより深く理解できます。

5 自分の理解を注解書などと照らし合わせる その箇所の主要テーマや著者の意図を理解したと思ったら、信頼できる注解書やスタディバイブルなどを1、2冊開いて、自分の理解と比較してみましょう。さらなる気づきが得られるかもしれません。自分の誤読に気づき、訂正する機会でもあります。しかし、まずは自分自身で一生懸命みことばに取り組むことが肝心、注解書に頼るのはあくまでその後です。

バック・トゥ・ザ・フューチャー

それでは、再びタイムマシンに乗り込み、21世紀に戻りましょう。聖書の世界から私たちの世界へと帰るために、もう一度、時間、文化、言語、そして地理的な隔たりを越えなければなりません。

これこそ広い意味での「聖書の適用」です。聖書時代のエルサレムやエペソ、コリントで学んだことを、現代のシカゴやロンドン、東京での生活に当てはめましょう。もともとはギリシャ語やヘブル語、アラム語で語られたメッセージを分かり

やすい日本語にします。異なる時代や文化の中で現代とは似て非なる問題について語られた真理を、私たちの状況に当てはめるのです。

各箇所状況や文脈を踏まえ、倍率を段階的に上げてみことばを学ぶ方法を紹介しましたが、タイムトラベルの「復路」で重要なのはその逆です。今度は聖書に書かれた細かな命令や規則の背後にある大きな原則を見つける必要があります。

★実際に聖書に取り組んでみる★

1. ヨハネの手紙第一の全体を読んで「最初の読者たちの置かれた状況やこの手紙の執筆理由についての明確な言及、そして間接的なヒント」を探してみましょう。その後、聖書ハンドブックやスタディバイブルの緒論（各書物の概要説明）を参考にしながら自分の考えと比較してみましょう。
2. アモス書1章3節-2章16節に出てくる町や国を聖書地図帳で確認してみましょう。また聖書辞典などでそれぞれの町や国について調べてみましょう。
3. 聖書の書物はそれぞれどのようなジャンルの文学で書かれていますでしょうか。聖書ハンドブックやスタディバイブルなどで調べてみましょう。
4. ヨハネの手紙第一、あるいはアモス書の全体を読んで、頻出する単語や概念を書き出してみましょう。そこからそれぞれの書物の主題について自分の言葉でまとめてみましょう。



ステップ2

より大きな原則を探す

あ

る家庭では食前のお祈りは当番制でしたが、一番下の子の番のときは家族みんながげんなりしていました。

というのも細々と一つずつ、延々と感謝が続くからです。それを黙って聞いているのはまるで終わりのない苦行です。自分のお皿から始まって、1人分ずつ順番に回っていきます。

「天のお父さん、僕の卵をありがとうございます。それからお母さんの卵と、お父さんの卵と、お兄ちゃんの卵と、お姉ちゃんの卵をありがとうございます。僕のトーストをありがとうございます。お母さんのトーストとお父さんのトースト、あとお兄ちゃんのトーストとお姉ちゃんのトーストもありがとうございます……」。この長い長いお祈りは、とにかくテーブル上の物

を言い尽くすまで終わりません。「お塩をありがとうございます。こしょうをありがとうございます。バターと、それからジャムもありがとうございます。イエスさまのお名前でお祈りします、アーメン」。みんなはやっと安堵のため息をつき、冷めた食事を頂くのです。

ところがある朝、彼の祈りがみんなを驚かせました。その日も、みんなため息交じりに手を組み、頭を垂れていました。今から5分、いや10分後には焼きたての目玉焼きもトーストも冷め、冷蔵庫から出したオレンジジュースは温まり、コーヒーはぬるくなる……。誰もがそう思っていました。いつも通り「天のお父さん」と彼の祈りが始まりました。でもその後がびっくりでした。「この食事をありがとうございます。イエスさまのお名前でお祈りします、アーメン」。彼は一般化、つまり「いくつかの物事（目玉焼き、トースト、塩、こしょう、バター、ジャム……）に共通する特徴を見つけて一つ（食事）にまとめる」ことを学んだのです。

聖書は確かに、特定の状況に置かれた特定の人々に書かれたものですが、そのメッセージはあらゆる時代の、すべての人々のためのものです。イエスの時代から今日まで、イエスに従う者なら例外なく、神の恵みと愛、そしてイエス・キリストの救いにふさわしい生き方を学ばなければなりません。ご自身さえ与えてくださった神への感謝をどのように表せばよいでしょう。日常生活のささいな一コマでどのように神、そして隣人へ

の愛を示せるでしょう。幸いなことに聖書には私たちが神の子として、神とともに歩む指針が示されています。ただ、その中にはあまりにも当時の状況に依存していて、現代の多くの読者には無関係としか思えないものもあります。

一般化を学ぶのは、みことばに基づいて生きるために最も大切なステップの一つです。あるみことばが現代を生きる私たちにはほとんど当てはまらないと思えても、見た目だけで判断せず、背後の大きな原則を探さなければなりません。

一番重要な戒め

聖書にある各々の具体的な教えから、その背後にあるより大きな原則を見いだすという考え方は、決して新しいものではありません。イエスご自身がそのことを教えてくださいました。

ある時、律法の専門家がイエスのもとに来て、その聖書知識を試そうとしました。「先生、律法の中でどの戒めが一番重要ですか」。これは当時、最も議論されていた問題[■]についてイエスの見解を尋ねるものでした。

イエスは彼に答えられました。『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』これが、重要な第一の戒めです。『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』という第二の戒めも、それと同じように重要です。**この二つの戒めに律法と預言者の全体がかかっているのです**」（マタイ22:36-40 強調は筆者による）

ユダヤ教の指導者たちは律法（モーセ五書）に613の戒めがあるとした。そこにはカビの生えた服に関する教えから贖罪（しょくざい）日に献げるいけにえの規定までさまざまな戒めがあり、彼らは重い（重要な）戒めと軽い（さまつな）戒めとを区別しようとした。

重要な戒めを遵守すれば残りをないがしろにして良い、と言っていたわけではない。むしろそれに従って生きるなら、残りの戒めにも必然的に従うことになるような包括的な戒めがあるのではないかと考えていた。

つまり、この二つの戒めは残りの戒めをまとめたものです。イエスによれば、これら二つの戒めが聖書のあらゆる律法や規定、命令の背後にある意図と精神を捉え、イザヤ、エゼキエル、エレミヤなど預言者たちのメッセージを説き明かします。この二つの戒めは普遍的で、いろいろな状況下に当てはまりました。事実、あらゆる状況で意義を持ち、実践できるものです。これらの戒めは神が各々の律法を与えられた理由、そしてその最終的な目標を示しています。

では、その他たくさんの戒めはなぜ必要なのでしょう。聖書はもともと、さまざまな状況に置かれた多様な人々に宛てて書かれました。戒めの多くは彼らがそれぞれの日常生活の各場面で神と隣人への愛を実践する具体例です。例えば、ビジネスの中で隣人を愛するとはどういうことでしょうか。「あなたがたは、さばきにおいて不正をしてはならない。物差しにおいても、秤においても、分量においても」（レビ記19:35）。困

窮し食べるにも事欠く人々への愛はどのように実践されるでしょう。「あなたがたが自分の土地の収穫を刈り入れるときは、畑の隅々まで刈り尽くしてはならない。収穫した後の落ち穂を拾い集めてはならない。……それらを貧しい人と寄留者のために残しておかなければならない」(レビ記19:9-10)

📖 神と隣人への愛が聖書のメッセージのすべてではない。聖書はこれら二つの重要な戒めだけでなく、多くの紙幅を割いて**神がどれほど私たちを愛しておられるか**を語っている。また後に、イエスは3番目の戒めを加えられた。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです」(ヨハネ15:12)。この愛の新たな対象はキリストにある兄弟姉妹であり、この愛の新たな標準は、十字架上で示されたキリストの犠牲的な愛である。

ある意味、聖書に書かれた各々の具体的な規則からより大きな原則を見つけるのは簡単です。私たちはどんな戒めも、その状況によらず、神と隣人への愛の表現だと知っているからです。創世記から黙示録まで聖書が一貫して強調するのは、キリストに従うとは神と隣人との関係に自らを献げ切ることだということです。神はイエス・キリストの姿を通し、私たちがご自身、そして隣人とともにどのように生きるべきかを示されました(ピリピ2:5-11)。

それでも、聖書の原則がこれだけだとしたら、さぞ退屈でしょう。あらゆる説教、信仰書、バイブルスタディがただただ

「愛しましょう」としか言っていないとしたら！ ありがたいことに、そういう心配は無用です。聖書の主題は子どもでも理解できるほど単純ですが、同時にそこには私たちの想像をはるかに超える豊かさと味わい深さが存在します。

聖書の教えのピラミッド

聖書の教えはピラミッドのような階層構造があります。「神、そして隣人を愛せよ」という二つの戒めが頂点で、教えや規定はすべて頂点と底辺の間のどこかに位置します。

頂点に近い規定ほど普遍的で抽象的なので、その数は多くありません。一方、ピラミッドの底辺に近い、例えば「牛に口籠（くつこ）をはめてはならない」（申命記25:4、1テモテ5:18）のような規定はたくさんあります。特定の状況のための具体的かつ詳細なものだからです。

底辺に近い種々の具体的な教えは私たちには無関係、あるいは不可解に思えることもあります。しかし上の階に目を向ければ、その背後にある共通原則や理由が分かります。逆に、頂点に近い規定は往々にして漠然としていて抽象的に感じられるので、下の階でどのように具体化されているかを確認しなければいけません。

実際の聖句でこのピラミッドを確認してみましょう。

偶像に献げた肉についてのパウロの教え

コリント人への手紙第一8章でパウロは偶像に献げた肉について教えています。現代では、この教えを身近に感じるとい

う人はあまり多くないかもしれません。しかし丁寧に読めば、食べ物についてのこの規定はピラミッドの最底辺に位置するものだと分かります。その上には二つの教えがあり、どちらも現代を生きる私たちに直接関係します。

この偶像に献げた肉について、具体的な教えの上の階に目を向けて、現代の私たちにも関係する一般的な原則を探してみましょう。まずはこの手紙のもともとの読者たちが直面していた問題を知り、それに対してこの箇所が何を語っているかを理解する必要があります。偶像に献げた肉の何が問題だったのでしょうか。コリントの人々は何に困惑していたのでしょうか。スタディバイブルの解説や聖書ハンドブックなどの助けを借りて、文化の隔たりを越えましょう。

市場で肉を買う、あるいは友人たちと夕食をともにするといった日常的な行動も問題をはらんでいた。肉屋の中には、異教の神殿儀式のために殺された動物や、偶像に献げて余った肉を仕入れて販売する者がいた。コリントのクリスチャンたちはそのような肉を買ってもよいか、また目の前に出されたときに食べてもよいか、確信がなかった。※1

パウロは、コリントの人々がこの問題をクリスチャンの視点から捉え直せるように助けます。まず彼は、偶像に献げられた肉を食べてもよいかなど気にしないと述べ、二つの理由を挙げています。一つ目は、この世界に神はまことの神お一人しかおられないと知っているからです。「『世の偶像の神は実際

には存在せず、唯一の神以外には神は存在しない』ことを私たちは知っています。というのは、多くの神々や多くの主があるとされているように、たとえ、神々と呼ばれるものが天にも地にもあったとしても、 私たちには、父なる唯一の神がおられるだけ」だからです（1コリント8:4-6）。二つ目の理由は、食物が神と私たちとの関係を左右するわけではないと知っているからです。「私たちを神の御前に立たせるのは食物ではありません。食べなくても損にならないし、食べても得になりません」（8節）

しかし同時に「すべての人にこの知識があるわけではない」（7節参照）ということも、パウロには分かっています。生まれてからずっと当たり前のように偶像礼拝と関わってきて、つい最近クリスチャンになったばかりの人たちは、パウロや信仰の強い教会の仲間たちが偶像に献げられた物を食べているのを見たらどう思うでしょう。「イエスを信じる歩みと偶像との関わりは両立できるのだ」と誤解するかもしれません。あるいはパウロたちの行動と信仰を理解できず困惑や疑いを覚えたまま、彼らの行動をただ真似するようになるかも知れません。

知識のあるあなたが偶像の宮で食事をしているのをだれかが見たら、その人はそれに後押しされて、その良心は弱いのに、偶像の神に献げた肉を食べるようにならないでしょうか。つまり、その弱い人は、あなたの知識によって滅びる

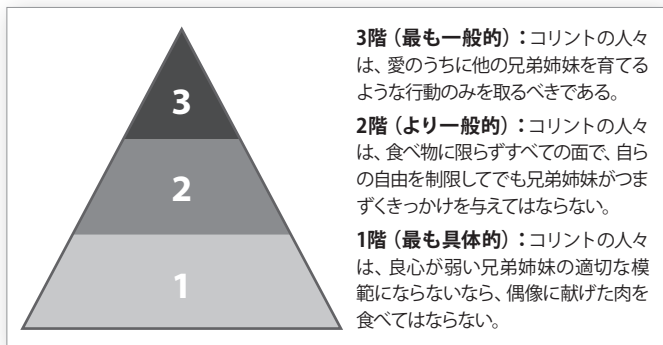
ことになります。この兄弟のためにも、キリストは死んでくださったのです。あなたがたはこのように兄弟たちに対して罪を犯し、彼らの弱い良心を傷つけるとき、キリストに対して罪を犯しているのです。(10-12節)

そんなリスクを冒すぐらいならと、パウロは次のように結論します。「ですから、食物が私の兄弟をつまずかせるのなら、兄弟をつまずかせないために、私は今後、決して（偶像に献げた）肉を食べません」（13節）

「偶像に献げた肉は食べない」という結論を私たちがただ真似る以上に重要なのは、パウロがそう結論するに至った理由を理解することです。8-9節でパウロは、問題の本質は偶像に献げた肉ではなく「あなたがたのこの権利が、弱い人たちのつまずきとならないように」することだと述べます。つまり、ここには食べ物よりも重要な原則があります。それは、他のクリスチャンが良心に反して罪を犯すきっかけを作ってはならないということです。罪はその人を傷つけ、滅ぼします（7、10節）。パウロの願いはむしろ、私たちがその人を愛のうちに育てることです（1節）。この原則は現代のさまざまな状況や実践に当てはまります。

ここまでで、偶像に献げた肉という当時の具体的な問題についての教えから、一般的な原則が見いだせることを示しました。それは「自分の自由をきっかけに他者が罪に陥ることがあってはならない」という原則です。「偶像に献げた肉は食べ

ない」という単なる決まり事のようなみことばから、私たちが真剣に考慮すべき大切な指針を見つけました。さらにそれに加え、パウロはあの最も重要な二つの戒めの一つにも言及しています。それは「愛によって兄弟姉妹を育てる」（1節参照）ということです。こうして、この箇所でもコリントの人々に求める実践の中に3層のピラミッドを見いだすことができました。



あらゆる聖句はいくつかの階層を持つ大きなピラミッドの一部です。それが分かれば、みことばに基づいて歩むとはどういうことかが理解しやすくなります。もしある聖句が当時の特定の状況に基づくもので私たちに直接当てはまらないなら、一つ上の階に目を向けましょう。そこでより一般的な原則を見だし、実践しましょう。

一般的な原則を見つける

聖句の背後にある一般的な原則を見いだすために、適切な

問いを立て、それに対する答えを探しましょう。ここでは大切な三つの指針を紹介します。ある聖句が直接今日に当てはまらない場合、これらの指針はより一層重要になります。

指針1：著者自身の言葉を精読する。

著者自身が一般的な原則に言及していないか？

先ほどのコリント人への手紙第一8章の場合、この初歩的で最も簡単な方法で、より一般的な原則を見いだせました。著者自身がより大きな原則に言及していないか探すというシンプルな方法です。先ほどのパウロの場合は9節でした。たいていの場合、新約聖書の著者たちはまず一般的な原則を述べ、その後、具体的な状況への対処法をいくつか例示します。そのすべてがそのまま今日の私たちに当てはまるわけではありませんが、背後にある一般的な原則はほとんどの場合、私たちにとっても有効な指針です。そこに神の御性質が現されているからです。

指針2：ある規定や教えが与えられた理由を探る。

この具体的な規定はどのような状況でなぜ与えられたのか？

著者が一般的な原則を述べているかどうかにかかわらず、多くの場合、規定そのものとそれが与えられた理由を精読すれば、より包括的な原則が見いだせます。聖書の教えは無秩序ではなく、ピラミッド構造になっています。どの規定も上位

の教えを具体的に適用したものです。その教えが与えられた理由を理解すれば一つ上の階、あるいはもっと上の階から今日に当てはまる原則を見いだせます。

補足 例えばパウロの次の言葉は、聖餐（せいさん）の度に個人的な悔い改めを促すものとして理解されることが多い。「みからだをわきまえないで食べ、また飲む者は、自分自身に対するさばきを食べ、また飲むことになるのです」（Iコリント11:29）。しかし17-34節の大きな文脈を確認すると、貧しい人への無関心や分派、さらにイエスが定められた聖餐の意味そのものの欠落など、当時のコリント教会が共同体として抱えていた具体的な問題があることが分かる。このみことばを私たちに当てはめようとする際には、その点を念頭に置かなければならない。

指針3：前後だけでなく、より大きな文脈を確認する より大きな文脈を確認することで、一般的な原則 が見いだせないだろうか？

一般的な原則を見つけるために大切なのは、直近の文脈だけではなく、より大きな文脈を確認するのも重要です。例えば、コリント人への手紙第一8章からパウロの意図していた一般的な原則を見いだすのは簡単でしたが、それは直近の文脈で言及されていたからです（9節）。しかし、時にはその聖句の前後数段落、あるいは数章を確認する必要があります。他の書物を参考にしなければならないことも少なくありません。最終的には聖書全体がすべての聖句の文脈であり、理解の指針です。

補足 例えばアモスが北イスラエル王国に対して語った厳しい裁きの預言には歴史的文脈がある。それは主に列王記第二に記された、代々の王たちが重ねた神への背信である。さらに申命記28章などを読めば「主の御声に聞き従わない結果、各地に散らされる」という事態は、彼らが約束の地に入る前からすでに預言されていたことが分かる。

しかし、神はそれでも彼らを見捨てず、悔い改めた民を回復させるとも約束されている（申命記30:1-10）。これがアモス書の最終盤、9章8節以降の大きな文脈であり、ヤコブの家、ダビデの子孫としてお生まれになるイエス・キリスト誕生の背景となる。

このような大きな文脈を知ることではじめて、現代の私たちに無関係に感じられるアモス書から神のみこころや思いを把握することができる。

📌 聖書全体の文脈とはまさに「はじめに」で言及したあの壮大なテーマそのものである。聖書の教えと指針はすべて、神とご自身に従う人々が互いに愛し合う共同体をつくるというご計画を成し遂げるために私たちを導く。

みことばから一般的な原則を見いだすのは、根拠聖句を探すことではありません。聖書の真理を簡潔で小ぎれいな定理にまとめる試みでもありません。そうではなくて、具体的な戒めや模範、約束の向こうにある神のみこころと思いを追求するのは、神が**何を**語られたかは極めて重要ですが、それと合わせて**なぜ**そう語られたかを理解したいのです。私たちが切に望むのは、神の考え方、すなわち、聖書全体を貫く壮大なテーマを具現化する世界観を育むことです。

みことばの大きな原則を探し求める中で、それぞれの節、段落、章、そして各書物に脈打つ神の鼓動を感じ取りましょう。聖霊が助けくださるので、私たちは妥協せずに「神のみこころを見分ける」（ローマ12:2）という目標を追い求めるのです。

口先だけの人にならないために

1960年代にアメリカの神学校で興味深い実験が行われました。まず、数人の神学生に良きサマリヤ人についての説教を依頼しました。彼らはそれぞれ自分の順番の直前まで他の場所に引き止められていたので、説教原稿を手に構内を一心不乱に駆け抜けなければなりませんでした。途中で具合が悪そうな人がいたのですが、皮肉なことに、立ち止まってその人を助けようとした学生はほとんどいませんでした。「大切な説教」を語らなければならなかったからです！

この章では、具体的なみことばの背後にもっと一般的な原則があるという考え方と、それを発見する基本的な方法をお示ししました。しかし、そうして見いだした原則もこのままでは単なる宗教臭いお説教です。もう一つ、決して欠かすことのできないステップがあります。それは、あなたが今置かれているところでそれを実践するということです。

※1 J. A. Thompson, Handbook of Life in Bible Times (Downers Grove, IL: InterVarsity Press, 1986).

★実際に聖書に取り組んでみる★

コロサイ人への手紙3章22-25節の奴隷たちに対するパウロの言葉は現代の私たちに直接関係がないように思えます。この箇所から、私たちに直接関係するより一般的な原則を見いだしてみましょう。

1. まず当時の奴隷について調べてみましょう。「マンガ聖書の時代の人々と暮らし」には次のように書かれています。「ローマでは、法律で奴隷は主人の財産とされていました。主人は奴隷を自分の好きなようにできました。ローマは奴隷のただ働きなしでは、やっていけませんでした」(p84)。もし他の資料があれば調べてみましょう。
2. 働くことが自分の利益に直結しないにもかかわらず、奴隷たちが地上の主人に真心から従うべき理由を、パウロはどのように書いていますか？
3. 直後の4章1節から、コロサイの教会の奴隷たちと主人たちについて何が分かるでしょう。(章や節の区切りにこだわる必要はないことを思い出しましょう。)
4. 「たいていの場合、新約聖書の著者たちはまず一般的な原則を述べ、その後、具体的な状況へのさまざまな対処を例示します」とありますが、それがこの箇所に当てはまるとしたら、一般的な原則はどこに述べられているでしょう。また奴隷と主人以外の具体例には他にどのようなものが挙げられているでしょう。

自分で聖書と向き合い答えをまとめてから、下記の解説を読んでみましょう。

解説 3章9-10節の「古い人をその行いとともに脱ぎ捨てて、新しい人を着」ることが、パウロがすべての人に求める大きな原則です。異なるアイデンティティを持つ人々が集まっていたコロサイ教会ですが、新しい人を着ることによって違いは覆われ「キリストがすべてであり、すべてのうちにおられる」のです（11節）。12-15節はもう少し具体的に、新しい人を着ることがどのような態度として表れるかを説明します。その後、それぞれの具体的な状況での実践が述べられます。まず教会の集会において（16-17節）、夫婦間で（18-19節）、親子の間で（20-21節）、そして奴隷たちが新しい人を着るとは何を意味するのかが22-25節で例示されています。また、4章1節には新しい人を着た主人の姿勢が示されています。

なお、コロサイ教会では奴隷たちも主人たちとともにクリスチャンで、同じ教会で一緒に主を礼拝していたようです。



ステップ3

みことばの原則を今日に 当てはめる

映

画『コイサンマン』では、アフリカ原住民の村にある日、飛行機のパイロットが捨てたコーラの瓶が落ちてきます。空から降ってきたということで、村人たちはこれを神々からの贈り物だと考えました。

最初、人々はこの瓶の不思議な見た目に困惑します。奥地なのでそれまで誰もガラスというものを見たこともなければ、瓶について聞いたこともありません。これは一体何なのか、さっぱり分かりません。しかし、しばらくするといろいろな使い道を考えだしました。硬いので木の根を砕くハンマーになります。円柱なのでめん棒としても使えます。口のところを

吹けば楽器にもなります。考えれば考えるほど、新しい用途はどんどん出てきます。

ある意味、みことばの原則もこのコーラの瓶のようです。正真正銘の「神からの贈り物」なのですが、初めは一体どうすればいいかわかりません。実生活にどのように活かすかを考え始めてようやく、それがいかに有益かが分かります。

しかし多くの人がつまずくのが、まさにこの点です。みことばの原則を自分の置かれた状況でどう活かすか、時間をかけて考えません。あるいはまったく的外れの状況にみことばの原則を当てはめようとするという間違いを犯します。原住民がコーラの瓶をめん棒にするようなものです。

「もしわたしを愛しているなら」

先ほど見たように、イエスは神と隣人への愛こそ「律法と預言者の全体」の要約だと教えられました（マタイ22:36-40）。聖書の細部に拘泥する当時の風潮の中、イエスは「律法の専門家」に全体像を、つまり律法の背後にあるもっと一般的な原則を求めなさいと言われました。ピラミッドで言えば、底辺から頂点に目を移しなさい、という促しです。

しかし、誤解しないでください。イエスは聖書の細部をないがしろにされたものではありません。十字架に向かう直前、イエスは弟子たちに言われました。「もしわたしを愛しているなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです」（ヨハネ14:15）。またこの直後、同じことを次のように言い換えられま

した。「わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛している人です」(21節)

つまり、律法の専門家にはピラミッドの底辺から頂上に目を移すよう促された一方、弟子たちには頂点から底辺に降りてくるようにと促しておられるのです。単に頭の中で神と隣人とを愛することを理解しているだけでは不十分で、実際に言動で愛を示さなければなりません。イエスを通して私たちのために御業を成し遂げてくださった神に、私たちははっきりと具体的な方法で感謝を表さなければなりません。聖書のあらゆる規定や教えの背後に神の愛を見いだすことができますが、逆もまた然りです。つまり、みことばのあらゆる規定や命令は、私たちが神や隣人への愛を表す具体的な方法です¹⁾。

¹⁾ 神の愛はすべてのみことばの基調だが、**私たちへの神の愛**を本質的に表すのはイエス・キリストの生涯、死、そして復活である。

事実、私たちがみことばから見いだす大きな原則は、具体的な教えと不可分です。例えば人を愛するといっても、具体的な行動なしに愛は示せません。忍耐する、親切にする、惜しみなく施すなどの行動が必要です。そして食べ物や衣服、お金などその人が必要としているものを実際に気前よく差し出さなければ、惜しみなく施しているとは言えません(忍耐や親切についても同様です)。目で見え手で触れられるほど具体的な行動を取らなければ、愛することも惜しみなく施すこ

とも口先だけで終わります。

ですから、ピラミッドの上層に登ってみことばの大きな原則を見つけたら、再び下へと降りていかなければなりません。来た道に戻るのです。各書物の読者たちが生きていた具体的な状況を踏まえ、彼らに与えられた戒めから一般的な原則を見いだしたら、今度は現代の私たちの状況に合わせて、それを再び具体化し直さなければなりません。

みことばの一般的な原則を私たちに当てはめる

私たちの生活にみことばの一般的な原則を当てはめる際、2種類の場合があります。一つ目はそのみことばに登場する人々が私たちと全く同じ状況に直面していた場合です。そのときは、そこで見いだされる一般的な原則をそのまま私たちに当てはめることができます。二つ目は、私たちの置かれた状況が彼らのものと全く同じではないけれども、何らかの対応関係がある場合です。

全く同じ状況に当てはめる。もともとの読者が置かれた状況が現代の私たちの状況と全く同じ、という箇所があります。例えばエペソ人への手紙6章でパウロは次のように書いています。「悪魔の策略に対して堅く立つことができるように、神のすべての武具を身に着けなさい。私たちの格闘は血肉に対するものではなく、……この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです」(11-12節)。比喩として使われているのが紀元1世紀のローマ兵のよろい

ではありますが、パウロのこの教えは当時と同じように今日でも極めて重要です。なぜなら、私たちの戦いの本質は2000年間変わっていないからです。今日でも私たちの敵は悪霊の勢力であり、私たちの唯一の防具は神の御力です。

同様に、ヘブル人への手紙が当時の読者に「金銭を愛する生活をせずに、今持っているもので満足しなさい」（13:5）と告げていますが、この忠告も色あせることはありません。いつの時代も人々は金銭に執着し、心を奪われてきました。あらゆる時代の人々が「あともうちょっとだけあれば満足なのに！」とつぶやいてきたのです。

どちらの箇所も、私たちを取り巻く状況は当時の読者たちと全く変わりません。そのような場合、彼らに語られた神のみことばは私たちにも全く同じように当てはまります。

全く同じではないけれども対応関係のある状況に応用する。たいていの場合、当時の読者の状況は今の私たちのそれと異なります。そういう場合はピラミッドの上層に目を向け、より大きな原則を見つけましょう。そして、現代の私たちが直面する似たような状況に当てはめます。その際とても大切な事は、みことばの扱っている状況と私たちの状況に本当に**対応関係**があるかをよく見極めることです。例えば、偶像に献げた肉について、パウロの指針の背後には「あなたがたのこの権利が、弱い人たちのつまずきとならないように気をつけ」という、より包括的な原則がありました（1コリント8:9）。

しかし残念なことに、この箇所やこれに似たローマ人への手紙14章の箇所は、パウロが全く意図しなかった方法で濫用されてきました。

以前は多くの教会が、ドラムやギターを教会内で用いるのはクリスチャンにとって罪だと主張していました。教会の年長者の「つまずきとなる」というのです。彼らはパウロの言葉で自分たちの主張を正当化しようとしたのですが、それは新約聖書時代のコリントやローマの状況とうまく対応しません。パウロにとってつまずきとは「兄弟姉妹に罪を犯させるもの」でした(13節参照)。かたや、ドラムやギターがつまずきだと言う場合、それは年長者にとって不快で好ましくないという意味でした。またパウロの言う「弱い兄弟姉妹」とは、周りに流されて良心の確信なく偶像に献げた肉を食べてしまう人のことでした。教会の年長者が良心の確信なくギターやドラムセットを買うよう誘惑されるのでしょうか。

一方「つまずきを避ける」という原則をお酒の問題に適用するのは妥当でしょう。断酒中のアルコール依存症の人が再び飲酒に立ち戻るきっかけとなり得るなら、私はお酒を飲む自由を放棄するべきです。ここには偶像に献げた肉に関する問題との対応関係があります。

あと一つ不可欠なもの

さまざまな隔たりを越えて聖書を理解し、原則を見だし、実生活に当てはめる。これは信仰の営みというより、むしろ

機械的な作業のようなものでしょうか。このプロセスの中で、神の出番は一体どこにあるのでしょうか。神は私たちが見いだして従うべき一連の原則を残していなくなられたのでしょうか。また、もし仮に神のみこころに沿って生きるための原則すべてを聖書から見いだしたとしても、それは本当に実践可能なのでしょうか。神の恵み、そしてその独り子の賜物を頂いても、その恵みにふさわしい歩みを全うするなど不可能なのではないでしょうか。

この章の始めに引用したキリストのことばを思い出してください。「わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛している人です」（ヨハネ14:21）。これに続くイエスのことばに、今挙げたさまざまな疑問に答える鍵があります。あと一つ、決して欠かすことのできない鍵です。「わたしを愛している人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身をその人に現します」。愛こそ、私たちとイエス・キリストの関係を前に進めていく力です。しかし、他の人への愛と同様に、イエスへの愛も具体的な行動を伴わなければなりません。イエスの願いは、私たちがイエスへの愛の具体的なかたちとして戒めに従う、つまりイエスのように神と隣人とを愛することです。一方でイエスも、ご自身を現し続けることで私たちへの愛を示すと約束しておられます。神のみことばを理解し、それに基づいて生きるとき、私たちはイエスをもっと深く知るようになります。その結果、私たちはイエスをさらに多く

愛し、それまで以上に喜んで従います。美しい愛の好循環が実現するのです。



神がどのようなお方で、私たちのために何を成し遂げてくださり、私たちに何を期待しておられるかをみことばから学ぶとき、「愛の通い合う神の共同体の実現」という聖書全体を貫く壮大なテーマをしっかりと踏まえましょう。そうすればみことばに対する私たちの応答は決して無味乾燥にはなり得ません。むしろ私たちは温かさや愛情、情熱を持ってみことばを実践することで、キリストへの愛と献身を主に表すのです。

★みことばの原則を具体的な行動に移すために★

私たちは前のレッスンでコロサイ人への手紙3章22-25節に取り組みました（42ページの解説を参照）。次に、ここで得た知見を、あなた自身の生活にどのように活かしていけるか、下記の設問に沿って考えてみましょう。

1. 「奴隷たち」が置かれていた状況とあなた自身の状況を社会的立場、教会での立場、世の報い、主の報いの4点について照らし合わせてみましょう。

	奴隷たち	あなた
社会的立場	市民ではなく主人の財産として扱われ、厳格な上下関係の最下層	
教会での立場	社会的立場や経済力、人種に関係なくキリストにある兄弟姉妹（3:11、1:2）	
世からの報い	働きは自分の報酬に直結せず、不正をした場合は処刑されることも	
主からの報い	御国を受け継ぐ、ただし不正に対しても公平に報いを受ける（25節）	

2. 42ページで解説されているように、文脈に気をつけながらこの箇所を読むと、奴隷たちもその主人たちもクリスチャンであり、同じ教会で一緒に主を礼拝していたことがうかがえます。日本ではほとんどクリスチャンのいない職場で働く人が多いですが、以下のパウロの勧めをどのように当てはめることができるでしょうか。あなたの職場で最近起こった出来事を思いめぐらせて考えてもよいでしょう。

人のご機嫌取りのような、うわべだけの仕え方ではなく、主を恐れつつ、真心から（地上の主人に）従いなさい。	
人に対してではなく、主に對してするように、心から行いなさい。	
主から報いとして御国を受け継ぐことを知っています。	
主人たちよ……自分たちも天に主人を持つ者だと知っているのですから、奴隷に対して正義と公平を示しなさい。	

3. パウロは3章22節-4章1節で奴隷と主人の例を取り上げる前に、夫婦や親子関係についても書いています。「新しい人を着る」(3:10参照)という大きな原則を、職場や家族という身近な人間関係の中で具体的に行動として表すよう、励ましたかったのでしょう。その点を踏まえて、あなたの人間関係にこのみことばをどのように当てはめようと思いますか。それぞれについて、祈りの中で主と率直に語り合いながら考えてみましょう。

家族	
職場	
教会	
親戚付き合い	
地域のコミュニティ	
その他、具体的な人間関係 例：_____さん _____グループ	
その他、具体的な人間関係 例：_____さん _____グループ	

聖書を学ぶための参考資料

聖書

まず自分の聖書を持ちましょう。アプリで手軽に読むこともできますが、一目で文脈をつかんだり引照を確認するために、紙の聖書を最低1冊は用意することをおすすめします。日本語の聖書には以下のような訳があります。

- 新改訳聖書2017（新日本聖書刊行会）
- 聖書協会共同訳聖書（日本聖書協会）
- 新共同訳聖書（日本聖書協会）
- 口語訳聖書（日本聖書協会）
- リビングバイブル（意識いのちのことば社）

スタディバイブル

聖書本文だけではなく緒論（各書物の概要説明）、注解や図表などが掲載されています。

- Bible navi 「バイブルナビ」 （いのちのことば社）
- 聖書 スタディ版 （新共同訳・日本聖書協会）
- 初めて読む人のための聖書ガイド（日本聖書協会）
 - 上記スタディ版から各所の緒論の部分だけをまとめた冊子

スマホ・タブレット用 聖書アプリ

- ともに聴く聖書
 - 聖書本文が読めるだけでなく、ドラマ仕立ての朗読を聴くこともできます。
- 聖書アプリ「YouVersion」
(ユーバージョン)



bible.prsi.org/ja



bible.com/ja

Youtube 動画

下に挙げた二つのチャンネルは、聖書全体や各書物の背景や文脈を確認するために役に立つ動画を配信しています。

- BibleCore バイブルコア
<https://www.youtube.com/@biblecore3965>
- 聖書プロジェクト
<https://www.youtube.com/@BibleProjectJapanese>

聖書ハンドブック

著者の生きた時代背景、その書が書かれた目的や主題をコンパクトにまとめたものです。歴史や文化的背景についても説明されています。

- 新聖書ハンドブック ヘンリー・H・ハーレイ著 (いのちのことば社)

聖書辞典

聖書に登場する人名や地名、古代の考え方や文化、習慣、神学用語、その他の用語などを掲載した辞典です。

- 新聖書辞典 (収録項目 5,780 項目 いのちのことば社)
- 新エッセンシャル聖書辞典 (収録項目 4,000 項目
いのちのことば社)

聖書地図帳

- コンサイス聖書歴史地図 デイビッド・P・バレット 著
(いのちのことば社)

その他参考資料

- マンガ聖書の時代の人々と暮らし シルヴィア・ガスタル
ディ/クレール・ムザッティ 著 (バベルプレス)
 - 聖書時代の人々の暮らしや歴史的背景がフルカラーの
イラストで分かりやすくまとめられています。

注解書（絶版のものを含む）

- 新聖書注解（全7巻 いのちのことば社）
- 実用聖書注解（いのちのことば社）
- 新聖書講解シリーズ（新約全12巻、旧約全19巻 いのちのことば社）
- ティンデル聖書注解（全48巻 いのちのことば社）
- ウィリアム・バークレー聖書註解シリーズ（新約全17巻 ヨルダン社）
- 新共同訳旧約聖書注解（全3巻 日本キリスト教団出版局）
- 新共同訳新約聖書注解（全2巻 日本キリスト教団出版局）

コンコルダンス

聖書に出てくる語句が五十音順に並べられた辞典です。その語句が聖書のどこに出てくるかを調べることができます。

- 新エッセンシャル聖書コンコーダンス（新改訳聖書第三版 準拠 収録項目数 8,000 いのちのことば社）
- 新約聖書語句辞典（新共同訳聖書準拠 教文館）
- 旧約聖書語句辞典（新共同訳聖書準拠 教文館）

インターネットを活用するためのアドバイス

インターネットでは聖書に関するさまざまな情報を手に入れることができますが、その際に以下のようなことに注意するとよいでしょう。

- 注解書の使い方と同様に、まずは自分自身で聖書本文と取り組むことが肝心です。インターネットによって聖書の知識を得ることはできますが、イエスとの愛の関係を育むのはあなた自身です。
- 情報の発信元を確認するようにしましょう。大きな団体だから必ず正しい、あるいは個人の発信だから信頼できないということではありませんが、判断の参考になります。その際「自分たちの読み方だけが正しい」と主張するような情報は注意して取り扱うようにしましょう。
- 自分の解釈や意見を補強するためにインターネットを用いるのは本末転倒です。一つの見解や解釈をうのみにせず、常に複数の見解を探しましょう。特に意見の分かれる主題や聖書箇所の場合は、そのような態度で取り組むことが必要です。自分の読み方を客観的に吟味するのは、聖書全体の読解力を育むためにも有益です。

バイブル・エンゲージメント 神さまと毎日楽しくデート

- 1 みことばを一語一句かみしめて
受け取る
- 2 まるで自分がそこにいるかのように
味わう
- 3 自分自身の内面や置かれている状況と
照らし合わせる
- 4 頭で分かっておしまいにならず、生き方をとおして
主に応える

聖書を読むときや
聞くときに
思い出してみてね！



特設サイト

「聖書って読んでおもしろい？」

毎日聖書を読む時間は神さまとのデートの時間。ばあばはそう言うけれど……
孫たちの反応は？



デイリーブレッド ばあば



デイリーブレッド社が発行する 冊子およびコンテンツのご案内



「デイリーブレッド」

日々聖書に親しみ、神と交わるひとときの
手助けをするデボーション誌。季刊冊子の
定期送付、メール、ウェブサイト、アプリで
お読みいただけます。詳しくは
ウェブサイトをご覧ください。



<https://japanese-odb.org/>

多言語対応アプリの
ダウンロードはこちらから



<https://campaign.japanese-odb.org/app-download/>

この冊子は正統なキリスト教の教理に基づいて制作されました。エホバの証人、末日聖徒イエス・キリスト教会（モルモン教）、世界平和統一家庭連合（統一教会）、全能神教会などの教理とは大きく異なることをご承知ください。（弊社の信仰告白は公式サイトでご覧いただけます。）

この冊子は非売品です。それを可能にするのは国内外の特定の教団やメガチャーチからの支援ではなく、読者の皆さまの金額の多少に関わらない自発的な献金です。弊社はみなさまと共に、人生を変える聖書の英知を多くの方々と共有し続けています。

私たちのミッションは、人生を変える聖書の英知をすべての人にわかりやすく伝えることです。私たちのビジョンは、世界中の人々がキリストを自らの神として信じる信仰に導かれ、よりキリストに似た者へと成長し、神の家族である他のキリスト者ととともに主に仕える人となることです。

タイムトラベルをしよう！ 聖書の世界の歩き方

イエスに応えて毎日生きるために

聖書を読んでも、難しくてよく分からないと感じる人がたくさんいます。また、それを日常生活に具体的に活かす方法が分からないという人も少なくありません。この小冊子はジャック・クハチェック氏の著書『Applying the Bible』からの抜粋で、聖書を読み真理を理解するためのガイドブックです。多くの人が難しく感じる点を取り上げ、その障壁を乗り越えられるように助けてくれます。あなたが聖書を理解し、神のみことばを土台に現代社会を生き抜いていく一助となれば幸いです。

ジャック・クハチェック氏はミシガン州グランドラピッズにあるBaker Publishing Groupで上級副社長ならびに出版責任者を務めています。著書には『Applying the Bible』や『The Superman Syndrome』の他、多くのバイブルスタディガイドがあります。



Our Daily Bread
Ministries®

japanese-odb.org

